Weekly Market Report

FX, JPY Interest Rate, Topics

Sep 2, 2024

1. 為替相場概況

アメリカ雇用関連指標の公表を控え、ドル円は神経質な展開か

USD/JPY （1週間の値動き）

（出所）Bloomberg

コメント

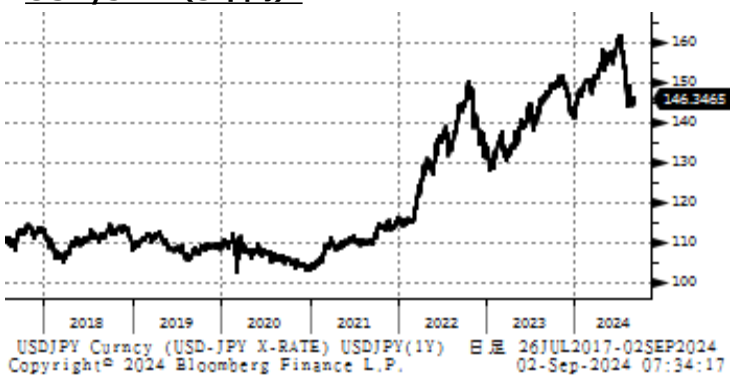
先週のドル円相場はおよそ3円のレンジで推移。前週末はジャクソンホールでのパウエル議長のハト派的発言を受けてドル円相場は下落し、週初は143円後半でスタート。26日から28日にかけては米住宅関連指標、米カンファレンスボード消費者信頼感指数などが発表されたものの動意に欠けて推移した。29日には米新規失業保険申請件数や米GDP改定値（結果+3.0%）が市場予想（予想+2.8%）を上回ったことでドル円相場は上昇し一時145円台を超えるも、限定的な値幅となった。30日の海外時間では米7月PCEデフレータ（結果2.5%）が予想通り（予想2.5%）の結果となり、大幅な利下げ観測が後退しドル買いが優勢、146円前半で越週となった。

今週も米国では重要経済指標が控えているなか、とりわけ労働市場の動向が米国利下げ期待に影響をもたらすと見られ注目が集まる。雇用統計の失業率は若干の改善をマーケットでは予測しており、米労働市場の底堅さが確認されれば日米金利差を意識した円安ドル高が進行するものと思われる。（市場営業部/浅野）

今週の経済指標（予定）

日付	イベント	予想
9/2(月)	（ユーロ）製造業PMI確報値	-
9/3(火)	（米国）ISM製造業景気指数	47.5
9/4(水)	（米国）JOLTS求人件数	8,100K
9/5(木)	（米国）ISM非製造業景気指数	51.1
9/6(金)	（米国）8月雇用統計	-

USD/JPY（5年間）



（出所）Bloomberg

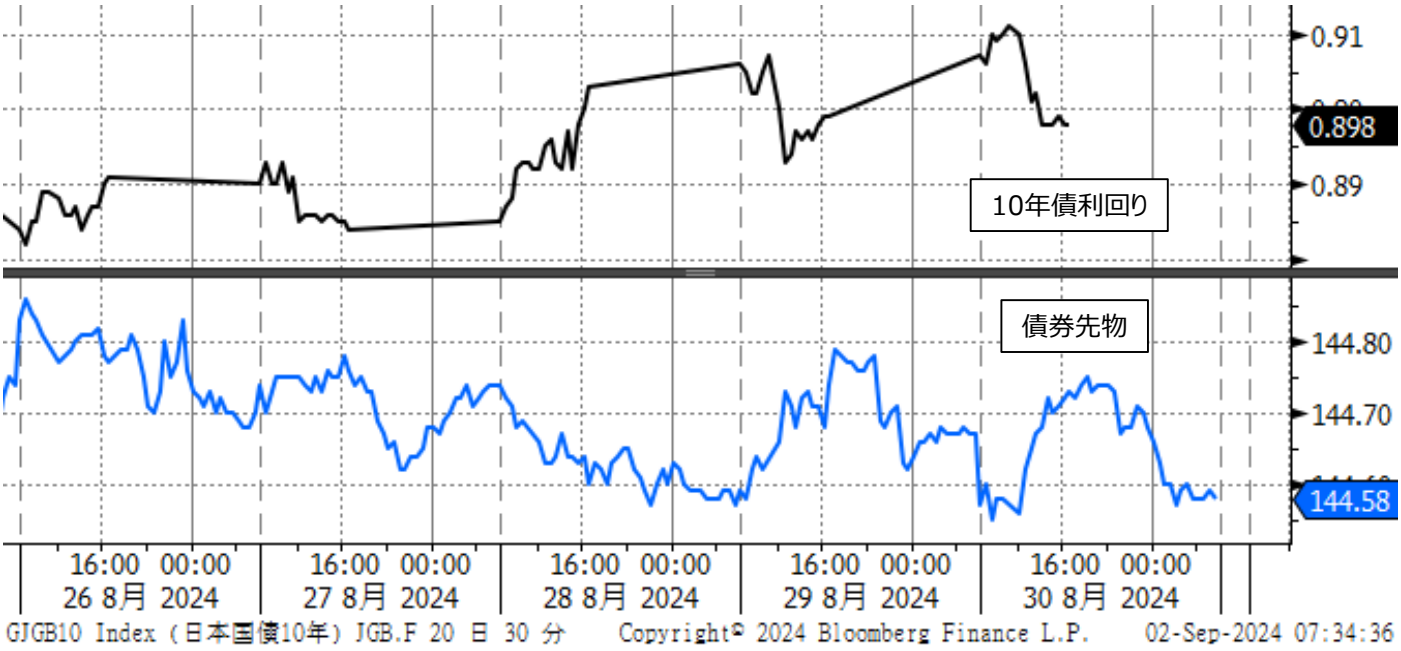
今週のレンジ予想（USD/JPY）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
川上茉奈	145.00－148.00	今週は重要な米経済指標の発表相次ぐ。余程大きな悪化を示さない限り、ドル買い・円売りの続伸を予想。
堀広太	145.00－147.40	週末の雇用統計に注目。米労働市場の弱さが示される場合は、米金利低下、ドル売り再燃に注意したい。

2. 円金利相場概況

再来週に日米中銀イベントを控え、今週は雇用関連指標に注目

10年国債金利と債券先物 （1週間の値動き）

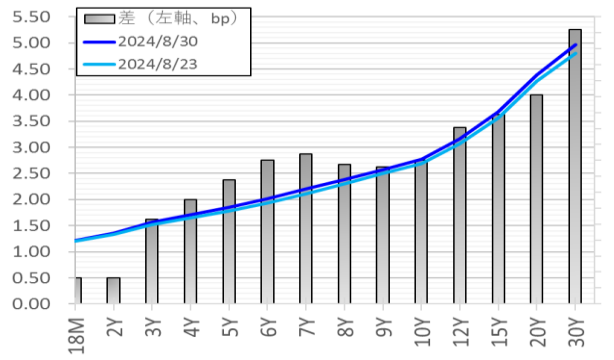


（出所）Bloomberg

コメント

先週の10年国債金利は小幅上昇。前週末のジャクソンホール会議でのパウエルFRB議長の発言が9月の利下げを確実視させる内容であったことから、週初の10年国債金利は0.87%台まで低下してスタートし、0.87%-0.88%台の狭いレンジで推移。週央には氷見野日銀副総裁が金融経済懇談会後の会見にて、「(市場は)引き続き不安定な状況」との認識を示したものの、「(経済・物価見通しが実現する確度が高まれば)金融緩和の度合いを調整していく」との発言から、追加利上げが意識され、10年国債金利は0.89%台後半まで上昇。NY時間には第2四半期の米GDP改定値が+3.0%と速報値の+2.8%から上方修正され、新規失業保険申請件数が予想23.2万件に対し23.1万件と共に堅調な内容に米金利上昇。週末にかけての10年国債金利も、一時0.91%程度まで上昇し、0.89%台で越週。9月FOMCでの利下げ幅に注目が集まる中、今週は5日の米ADP雇用統計、米新規失業保険申請件数、6日の米雇用統計等の雇用関連指標に注目したい。（市場営業部/遠藤）

金利スワップ変化（1週間）



10年円金利スワップ推移（5年間）

（出所）Bloomberg

今週のレンジ予想 （10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
加藤祐樹	0.85%－0.95%	金曜日の米雇用統計に注目。9月のFOMCでの利下げ幅を占う重要指標となるため、発表までは方向感出づらい展開を予想。
亀田則子	0.86%－0.96%	今週は3日10年債、5日30年債の入札が控えているが、週末の米雇用統計を控え様子見の展開と予想。

3. 今週のトピックス

英ポンド相場動向

英国景気の回復と政治の安定を受けて英ポンドは堅調に推移。貿易赤字の継続が上値抑制要因か

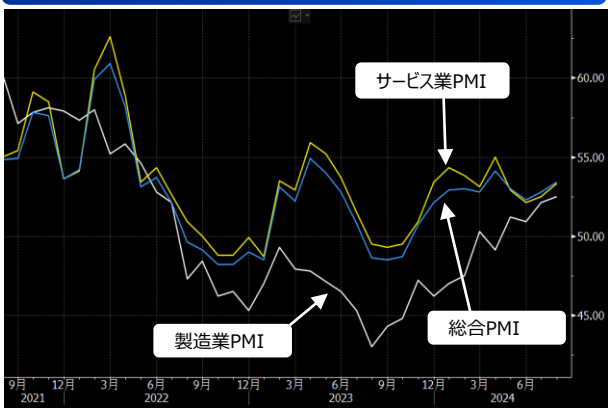
＜英国経済の状況＞

英国の2024年4-6月期実質GDP成長率は前期比+0.6%と、サービス部門の寄与によって2023年後半のリセッションからの着実な回復を示す内容となった。BOE（イングランド銀行）の予測する2024年のGDP成長率は+1.25%、2025年は+1.00%に上方修正されている。

8月のPMI（購買担当者景気指数）も、総合が53.4（前回52.8）、製造業が52.5（前回52.1）、サービス業が53.3（前回52.5）と、インフレ圧力の低下がサービス部門の景況感改善に寄与する結果となっている【図表1】。

インフレについては、7月のCPIが総合で前年比+2.2%（前月+2.0%）、コア指数で前年比+3.3%（前月+3.5%）とインフレ鈍化の流れが継続。これまで高止まっていたサービス指数も前年比+5.2%（前月+5.7%）と大幅に減速している。

【図表1】英国の購買担当者景気指数（PMI）



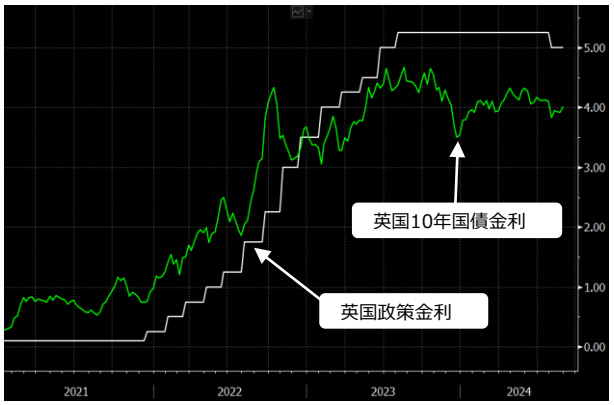
（ 出所:Bloomberg ）

＜イングランド銀行の金融政策＞

BOEは、2023年8月以降、政策金利を5.25%に据え置いていたが、2024年8月の金融政策会合において投票結果5対4の僅差ながら25bpの利下げを決定し、政策金利を5.00%とした【図表2】。インフレの沈静化に加え、労働需給が緩和してきたことが背景といえるが、今後の利下げについては経済データをみながら会合ごとに判断するとしており、市場では11月会合での追加利下げが織り込まれている。

英国10年金利は4.0%程度と低下基調が継続。ただし、英国金利が米国金利を上回ってきていることは、英ポンド相場にとって下支え材料となりそうだ。

【図表2】英国の政策金利と10年国債金利（%）



（ 出所:Bloomberg ）

＜英ポンド相場の見通し＞

英ポンドの対ドル相場は、2024年4月に1.23の安値を付けたあと、2年ぶりの高値水準である1.32台まで上昇【図表3】。年初来の対ドルパフォーマンスは+3.1%と先進国通貨の中で最も強く、シカゴIMMの投機筋ポジションも9万枚程度のネットロングと英ポンドの積み増しが進んでいる状況だ。

英ポンドの対円相場についてはドル円相場の影響が大きいが、7月に2008年以来となる208円台まで上昇したあと、180円まで急落するボラティリティの高い動きとなっている。

当面の英ポンド相場は底堅い展開か。貿易赤字が継続していることが上値抑制要因となってくるが、ドル売りの流れに加えて英国経済の回復期待から英ポンドは堅調に推移しそうだ。

政治的には7月に実施された総選挙で労働党が単独過半数を獲得し、スターマー氏が首相に就任。14年ぶりの政権交代となったが、政治の安定に加えてEUとの関係改善が期待されることから英ポンドの押し上げ要因といえるだろう。

当面のレンジは対ドルで1.29-1.34、対円では186-196円を想定している。（チーフ・マーケット・ストラテジスト／諸我 晃）

【図表3】英ポンドドル相場とシカゴ投機筋ポジション

（ 出所:Bloomberg ）

ご留意事項

・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものでもありません。
・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断でお願いします。
・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。

あおぞら銀行
AOZORA

商号：株式会社あおぞら銀行　（登録金融機関　関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会